

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念に「地域密着」を盛り込み、理念を継続できるように取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	今年は職員それぞれに「今年のホームの目標」を考えてもらい、理念の再確認をしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームの玄関やフロアに掲示。運営推進会議の中でも「入居者の願い」「ホームの目標」など一緒に考える時間を設けている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会、マンションのオーナーとは変わらず良いお付き合いをさせてもらっている。しかし、幅広く広がるところまでは到達していない。		なかなか広がるところまで到達していない現状のため、今後もこちらから働きかけていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議や交流会にも町内会長さんをはじめ、役員さんらが参加してくださっている。地域の行事へも誘っていただき、敬老会やお祭りに参加させてもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は特に貢献できる取り組みは出来ていない。		認知症サポーター養成講座等を開催する場を作っていけたらと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員、ご家族等へ評価を見ていただき、出来ることから改善を試みている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年と同様に運営推進会議等で報告や意見交換を行っている。全体的な評価ではなかなか意見はでないため、今後はテーマ別にするなど工夫していきたい。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員さんとは相談できる関係が出来ている。グループホーム協議会の中でも市の担当者の方との意見交換会があり参加している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加し、わからないことがあれば問い合わせをしながら対応している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し、職員へ周知徹底している。身体拘束に関してはベット柵を利用される方が1名いらっしゃるため、ご家族と相談しながら、記録・検討している。(昨年より減らせている)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書等は必ず説明をし、署名・捺印をいただいている。不明な点は相談してもらえるよう声をかけている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者はうまく発することが出来ないことが多いので、日常の会話や様子への配慮に心がけている。相談員の方と会話が弾んでいる姿もみられ気になる点には声をかけてもらっている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月写真入りのお便りと近況報告で利用者のここ1ヶ月の様子をお伝えしている。ホームの報告事項はなるべく運営推進会議のときに報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>遠慮される部分も多いので返信のお手紙やアンケートなどで発してもらおう機会を作っている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1度ミーティングのときに困っていることを話し合ったり、意見を出してもらっている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>外出時、体調不良の方がいるときにはリスク管理を重視し、調整している。新しい利用者の入居の際は夜間の人数を調整している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職に関しては昨年と変わらず多い。利用者の不安を軽減できるよう配慮していくとともに、離職が少なくなるよう今後も努力していく。</p>		<p>利用者やご家族に報告することで混乱や不安を緩和していきたい。今後も離職が少なくなるように相談や面談を継続していきたい。</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>特に採用対象条件は設けていない。初めて介護職に就かれる方には1日職場体験をしてもらい、雰囲気や仕事の内容等を事前に伝えるようにしている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>ミーティングやカンファレンスの際に接遇やサービス内容について討議している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>2ヶ月に1回、勉強会を開催している。職員の意識の向上に努めている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会への参加を通じて、近隣ホームと交流ができ、取り組みなどの意見交換ができています。(勉強会には職員も参加)</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>個々の面談を取り入れ、相談できるようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>新人教育や業務改善にはみんなで取り組んでいる。適材適所に役割を持ってもらうことで自信につなげ、向上心のアップしてもらいたい。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居の際には担当職員を配置し、担当者から徐々に顔見知りの関係を築いている。気づきシートを活用することで本人の希望や状況を職員全体で情報交換できるようにしている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学に来られた際や電話等でも随時相談に応じている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前に関わりのあったサービスや関係者の方々に情報をいただくことで今後の支援について検討し対応している。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学を随時受け付けており、ホームの雰囲気味わってもらったり、利用者同士でお話できるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>それぞれの出来ることに目をむけ、生活動作や家事を一緒に行なうことで出来たことを一緒に喜んだり、教えていただいたり、コミュニケーションを楽しむようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会も多く協力して下さるため、一緒に考え、一緒に支えていけるよう相談しながら行っている。ご家族との外出も多くなっている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と一緒に楽しんでいただける行事(お花見、紅葉見物)を取り入れていくことで普段の利用者の様子を見てもらったり、今と一緒に楽しく過ごしていただけるように支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に併設のデイサービスへ通われていた方もいらっしゃるため、お友達に顔をみせに行ったり、ご家族と行きつけの美容室に行かれたりしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	時にはクレームや口論がある。個々を尊重し職員がパイプ役になれるように努めている。みんなで楽しむ誕生日会やお花見、個々で楽しむ買い物などどちらも大切にしている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院へ転院した方が多いため、お見舞いにいったりしながら今後の状況を見守っている。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを発することが難しい方もおられるため、表情や今までの生活をもとに探り出している。ご家族にも協力してもらい本人の思いを確認したり、検討したりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族とのコミュニケーションを大切に、一緒にご本人のことを探って行けるように努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	報告連絡相談の重要性を常に伝えている。職員全体で情報交換することで1つのケアに固執することなく、個々にあわせ工夫できていると思う。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスにて介護職員の意見や案を検討しながら介護計画を作成している。ご家族へも近況の説明や意見をもらい今後の計画を説明している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院等で状態の変化がある場合に必要に応じて介護計画の見直しを行っている。具体的なケアに関しては日々の情報交換の中で変更していくこともあり、モニタリングに記載するようにしている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に介護計画の日々の評価コメント欄を作っているため、職員全員で記入していくことで伝達している。計画変更する際にもとても役に立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出、外泊したくても、ご家族に不安があることもあるので、相談したり、車の乗り降りのコツなども伝えることでご家族との外出も増えてきている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	趣味の作品を年長者の作品展に出品したりしている。		今後、地域の消防団の方々や学校などとも関係作りを広げて生きたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は他のサービスの利用はしていない。		今後、必要に応じて相談していく。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在協働したマネジメントの事例はない。		今後、必要に応じて相談していく。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医(ホームドクター)とは定期的に報告相談し、必要に応じて受診や往診をお願いしている。他の病院へかかっている場合はお手紙にて情報の共有を行うことがある。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて、定期受診をしたり、相談にのってもらっている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月水金の週三回訪問看護師の訪問があり、日々の健康管理や受診のアドバイス、介護計画への助言をもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際はその方の生活の状況を病院へ伝え、混乱しないよう配慮してもらおうと共に必要に応じてカンファレンスに参加させてもらい医師、看護師、ご家族と共に連携しながら対応している。早期退院のときには病状に関する注意点や生活上の注意点を伺うことで安心して過ごしてもらえるように環境を整えている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの看取りの経験がないため不十分さはあると思われるが医師やご家族と一緒に、その方に必要かつ安心できる治療方針を決めていけるようにしている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師、看護師、ご家族、ホームの職員と話し合い、その方にあった支援ができるように取り組んでいる。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院によるダメージは大きいと、日々の健康管理に努めている。入院時は面会等も増やし、安心してもらえるよう支援している。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや排泄介助・入浴介助などのプライバシーに関してはホーム全体で見直しを行っている。新しい職員への伝達や自分自身のケアについて振り返りができるように声かけ、面談を行っている。		今後もプライバシーに関しては見直しする機会を設けて、取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	なるべく、希望や要望が口に出来るような環境作りを目指している。希望をうまく言えない方もいらっしゃるため、思いを探りながら職員の決め付けにならないように気をつけている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	表情や状況に合わせてアプローチしたり、活動を促したり、得意なことをしていただいている。利用者の気分がプラスになるような声かけをしたり、お誘いするタイミングなども考えながら行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ホームに訪問してくださる理美容を利用されたり、ご自分の行きつけのお店にご家族と行ったりと各自(ご家族)と選ばれている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は昼・夕は仕出しを利用している。外出の時にはお弁当と一緒に作ったり、月に数回手作りの日を設けてリクエストにお答えしている。週に1回おやつ作りをしている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコは遠慮してもらっている。お酒に関してはイベント(父の日・母の日)やご家族との外出時など回数的には少ないが楽しまれている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自宅や病院でポータブルトイレを使用していた方も日中、夜間共にトイレでの排泄に慣れてこられている。日中は布パンツを利用されている方も5名おられ、トイレの混雑に配慮したり、しぐさに気をつけながらケアしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>高齢な方が増え体力的な面からも週2～3回の入浴を行なっている。声かけで入浴してもらっているが、本人の気分や体調に合わせ調整しながら行なっている。</p>	<p>職員配置の関係で日中入浴が基本となっているので、希望があれば幅を広げていきたいと思う。</p>
60	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>基本的には生活の流れは本人の希望に添うようにしている。昼夜逆転しないように日中の活動へのお誘いは行なっている。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>生活歴や趣味を大切に、なるべく続けていけるようにアプローチしている。ご家族より、家では見たことがないと言われることもあり、ホームで役割を見出していることも。</p>	
62	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>その方のニーズや状況に応じてお財布を所持してもらっている(小銭のみ) 買い物へ出かけるときには交通量が多いため職員が付き添っている。</p>	
63	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>気候の良いときには散歩、買い物へお誘いしているが、最近インフルエンザの予防で外出を控えている。</p>	
64	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>ご家族との外出も増えてきており、ご家族と外出しやすいように、ご家族の不安の解消や介助の方法(車の乗り降り、車イスの使用など)をお伝えするようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話は利用してもらっている。手紙は字を書くことが難しい面もあるが年賀状を職員と作成している方もいらっしゃる。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	交通の便が良いため面会の方は多い。ゆっくりと居室で家族団らんされたり、フロアで他の入居者にも声をかけてくださったりする姿が多くみられるようになった。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員へ定期的に勉強会を行っている。昨年は3名の方がベッド柵を利用していたが現在は1名に減っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵は使用していない。夜間は夜勤者1名なので玄関のみ戸締りしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	フロアから居室が見渡すことが出来るので、必ず職員を配置するようにしている。離れる場合には職員同士声を掛け合うことで所在の把握や安全確認している。		体調不良を訴えられないこともあるため夜間のラウンドについても検討していく。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや薬品は置きっぱなしにならないようにしているが、個々に応じて手渡し使用してもらうことはある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアル作成をしており、職員には説明を行なっている。事故後対策会議を行ったり、ヒヤリはっとの検討会を行なうことで意識を高めている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応はチャートにしていつでも確認できるようにしている。消防の協力を得て心肺蘇生の講習も受けている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マンションの管理者と共に協力して避難訓練等の機会を作っている。マンションの方々にも声をかけていただいたが、働いている方も多く参加は難しい状況。		今後も町内会の防災訓練に参加するなどして広げていきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクは伴うがなるべくできることはおこなってもらい見守るようにしている。ご家族には状況を説明し、一緒に対策を練るようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	医療用の個人ファイルを利用し、既往歴、受診記録がわかるようにしている。バイタル確認、入浴・トイレでの心身の確認で異変の早期発見に努めている。小さなことでも介護記録・伝達ノートへ記入し送りしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書やアルバムを作り、職員が誰でも確認できるようにしている。お薬の調整に関しては主治医らと相談して行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤コントロールの必要な方がほとんどだができるべく自力排便できるように体操をしたり、バナナやヨーグルトなどもおすすめるようにしている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行なっている。ご自分でできるところはしてもらい仕上げや口腔内の点検は職員が行なっている。週に1度、いればの洗浄も行なうようにしている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄状況にあわせ食事・水分を勧めている。自ら「お茶ちょうだい」と言われる方は少ないので声をかけ促している。体重測定を毎月行っている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成をしており、定期的に勉強会も行なっている。今年は新型インフルエンザについてのマニュアルも職員に回覧し、予防や早期発見に努めている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具に関しては定期的な消毒や清掃を行なっている。食材に関しては新鮮なものが良いため、宅配業者を利用し、利用者と一緒に食べたいものを選んだり、賞味期限はボードに記入することで確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	マンションの2階のため玄関が分かりにくい。1階の玄関にはお花を育てている。駐車場が停めにくいいため事故がないよう誘導したりして配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花を生けたり、季節を感じられるカレンダーと一緒に作り掲示したりしている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂スペースとリビングスペースを作ることで生活の中に移動する動線が増えた。時にはソファや居場所を取り合うこともあるが良い刺激になっている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と担当職員とで相談しながら好みや使いやすさを考え工夫している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日はほぼ毎日換気している。トイレのにおいやお部屋のにおいに関しても継続してこまめにゴミを出すなど工夫している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居場所を選べるようにしていることで生活内で歩くことが多くなっているためハビリティとなっている。車イスの自走やカートでの歩行も出来るスペースをつくり、ご自分で動けるようにしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来ることを探り出し日々のアプローチに取り入れている。出来ることを喜んだり、感謝を伝えることでやる気や活気も出てきている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階玄関にはお花を育てている。利用者と園芸をしたり、ベンチを備え付けているので外の空気を吸いに行ったり、散歩に行ったりしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年は『21年の願い』として利用者の願いをご家族や地域の方々の協力のもと考えてもらった。(ホームの掲示板に飾っている)その願いをご家族や職員で支えながらかなえていきたいと思っている。

出来る事、不安に思っていることをしっかり見極めながら、日常生活の中で自然とりハビリを行なうことで残存機能の継続に努めている。